

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-28666

(P2014-28666A)

(43) 公開日 平成26年2月13日 (2014. 2. 13)

(51) Int.Cl.
B 6 5 H 35/07 (2006.01)F 1
B 6 5 H 35/07テーマコード (参考)
3 F 0 6 2

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2012-169041 (P2012-169041)
(22) 出願日 平成24年7月31日 (2012. 7. 31)(71) 出願人 509152530
株式会社 レンズ
大阪府貝塚市澤 3 9 8 番地
(74) 代理人 100082474
弁理士 杉本 丈夫
(74) 代理人 100129540
弁理士 谷田 龍一
(72) 発明者 福永 光延
大阪府貝塚市澤 3 9 8 番地 株式会社レン
ズ内
(72) 発明者 中島 由紀
大阪府大阪市天王寺区生玉前町 4 - 1 9 -
3 0 1
Fターム (参考) 3F062 AA04 AB10 BA06 BD01 BD08
BF01

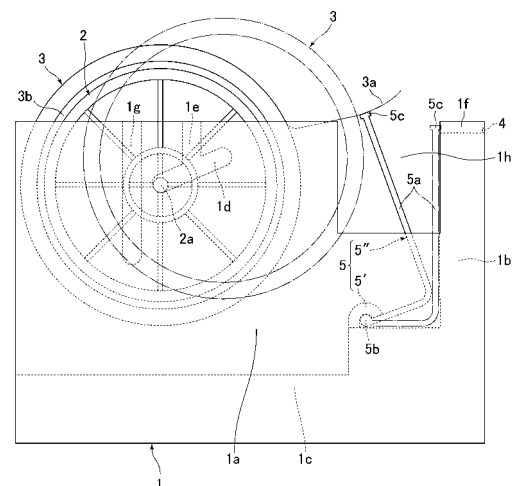
(54) 【発明の名称】 テープカッター

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】安全性に優れていると共に、切断された粘着テープのカッター刃からの引き剥がしを確実に且つ良好に行えるようにする。

【解決手段】粘着テープロール3から引き出された粘着テープ3aを切断するカッター刃4とを備えたテープカッターに於いて、ケース本体1の対向する両側壁1aに、ホルダー2を回転自在に且つカッター刃4から離間する方向へ移動自在に支持するガイド溝1d若しくはガイド穴をケース本体1の他端部へ向って下り傾斜状に形成し、当該ガイド溝1d若しくはガイド穴にホルダー2の中心部に設けた支持軸2aの両端部を挿入してホルダー2及び粘着テープロール3が自重によりカッター刃4から離間する方向へ移動するようにし、粘着テープ3aが切断されてホルダー2及び粘着テープロール3が自重により粘着テープ3aの先端をカッター刃4から引き剥がしてホルダー2側へ離間させるテープ保持機構5を設ける。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも上方が開放された収容空間（S）を備えたケース本体（1）と、ケース本体（1）の収容空間（S）に収容され、ケース本体（1）に回転自在に支持されたホルダー（2）と、ホルダー（2）の外周面に嵌められ、粘着テープ（3a）をロール状に巻き回して成る粘着テープロール（3）と、ケース本体（1）の上面側一端部に設けられ、粘着テープロール（3）から引き出された粘着テープ（3a）を切断するカッター刃（4）とを備えたテープカッターに於いて、前記ケース本体（1）の対向する両側壁（1a）に、ホルダー（2）を回転自在に且つカッター刃（4）から離間する方向へ移動自在に支持するガイド溝（1d）若しくはガイド穴をケース本体（1）の他端部へ向って下り傾斜状に形成し、当該ガイド溝（1d）若しくはガイド穴にホルダー（2）の中心部に設けた支持軸（2a）の両端部を挿入してホルダー（2）及び粘着テープロール（3）が自重によりカッター刃（4）から離間する方向へ移動するようにし、また、ホルダー（2）とカッター刃（4）との間の収容空間（S）に、粘着テープロール（3）から引き出されてカッター刃（4）により切断された後の粘着テープ（3a）の先端部を粘着保持すると共に、粘着テープ（3a）が切断されてホルダー（2）及び粘着テープロール（3）が自重によりカッター刃（4）から離間する方向へ移動するときに粘着テープ（3a）の先端部をカッター刃（4）から引き剥がしてホルダー（2）側へ離間させるテープ保持機構（5）を設けたことを特徴とするテープカッター。

10

【請求項 2】

20

テープ保持機構（5）は、ホルダー（2）とカッター刃（4）との間の収容空間（S）の底面若しくはケース本体（1）の両側壁（1a）の内面に設けた軸受部（5）と、軸受部（5）にカッター刃（4）側及びホルダー（2）側へ揺動自在に支持され、粘着テープ（3a）を切断する際に粘着テープ（3a）を保持すると共に、カッター刃（4）により切断された後の粘着テープ（3a）の先端部を粘着保持して粘着テープ（3a）の先端部をカッター刃（4）から引き剥がす起立姿勢のテープ保持体（5）とから成り、前記テープ保持体（5）は、粘着テープ（3a）を粘着保持していないときに自重によりカッター刃（4）側へ揺動して粘着テープ（3a）を切断する際に粘着テープ（3a）を保持すると共に粘着テープ（3a）がカッター刃（4）で切断された際に粘着テープ（3a）の先端部を粘着保持する粘着位置と、粘着テープ（3a）が切断されてホルダー（2）及び粘着テープロール（3）が自重によりカッター刃（4）から離間する方向へ移動するときに粘着テープ（3a）に引っ張られてホルダー（2）側へ揺動して粘着テープ（3a）の先端部をカッター刃（4）から離間した状態で保持する保持位置とに亘って揺動自在に構成されていることを特徴とする請求項 1 に記載のテープカッター。

30

【請求項 3】

軸受部（5）は、ケース本体（1）と一体的に若しくはケース本体（1）と別体的に形成されており、当該軸受部（5）の一部分は、テープ保持体（5）がホルダー（2）側へ揺動したときに保持位置で止まるようにストッパーとしての機能を有することを特徴とする請求項 2 に記載のテープカッター。

【請求項 4】

40

テープ保持体（5）は、縦向き姿勢の立上り部（5a）と、立上り部（5a）の下端に連設され、軸受部（5）の内方へ回転自在に挿入される軸部（5b）と、立上り部（5a）の上端に連設され、粘着テープ（3a）を切断する際に粘着テープ（3a）を保持すると共に粘着テープ（3a）がカッター刃（4）で切断された際に粘着テープ（3a）の先端部を粘着保持する立上り部（5a）の厚みよりも広幅の保持部（5c）とを備えており、当該テープ保持体（5）は、粘着位置へ揺動したときには立上り部（5a）の一部が収容空間（S）のカッター刃（4）寄りの側面に接触して粘着位置に起立姿勢で保持され、また、保持位置へ揺動したときには保持部（5c）が粘着位置にあるときよりも高い位置になると共に、軸受部（5）のストッパーにより保持位置で止まるように構成されていることを特徴とする請求項 2 又は請求項 3 に記載のテープカッター。

50

【請求項 5】

テープ保持体（5）の少なくとも保持部（5c）の色を粘着保持された粘着テープ（3a）を見易い濃色としたことを特徴とする請求項 4 に記載のテープカッター。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、机上等に置かれ、粘着テープをロール状に巻き回して成る粘着テープロールを回転自在に保持すると共に、粘着テープロールから所定量引き出された粘着テープを切断するカッター刃を備えたテープカッターの改良に関するものである。

【背景技術】

10

【0002】

従来から一般的に使用されているテープカッターは、図示していないが、机上等に安定した姿勢で置かれ、上方が開放された収容空間を形成したケース本体と、ケース本体の収容空間に収容され、ケース本体に回転自在に支持された円形のホルダーと、ホルダーの外周面に嵌められ、粘着テープをロール状に巻き回して成る粘着テープロールと、ケース本体の一端部に設けられ、粘着テープロールから引き出された粘着テープを切断するカッター刃と、カッター刃の粘着テープロール側に設けられ、粘着テープの切断時に粘着テープを保持固定して粘着テープの切断を安定して行えるようにすると共に、切断された後の粘着テープの先端部を粘着保持する保持部とを備えている。

【0003】

20

而して、前記テープカッターにより粘着テープを切断する場合、粘着テープの粘着テープロールと保持部との間に位置する部分を指で摘まみ、この状態で粘着テープを引っ張って使用する長さ分だけ引き出した後、粘着テープをカッター刃に押し付けて切断する。

このとき、切断された粘着テープの先端部は、カッター刃の近傍に位置する保持部に粘着保持され、粘着テープロール側への巻き取りが防止される。

【0004】

しかしながら、従来のテープカッターは、切断された粘着テープの先端部がカッター刃の近傍に位置する保持部に粘着保持されているため、粘着テープを新たに引き出して切断する際には、粘着テープの先端から数 cm ほどのところを指で摘まんで引き出してカッター刃により切断しなければならないので、次の（a）～（e）に示すような問題点があった。

30

【0005】

（a）即ち、引き出した粘着テープを切断した際、粘着テープの真ん中あたりに指の指紋や汚れが付くことになり、見た目が悪くなると共に、粘着力も低下することがあった。

（b）また、粘着テープを切断した後は、粘着テープの真ん中あたりを摘まんでいるため、粘着テープを持ち替えないと、正確に貼れないことになる。このとき、粘着テープに更に指紋が付くことがあった。

（c）更に、粘着テープの持ち替えがスムーズにいかない場合や切断した粘着テープが長い場合には、粘着テープがよじれたり、皺になることがあった。

40

（d）そのうえ、粘着テープを引き出す際には、カッター刃の奥から粘着テープを持ち上げて引き出さなければならず、粘着テープの引き出し操作を行い難かった。

（e）加えて、粘着テープの先端から数 cm ほどのところを指で摘まむようにしているため、粘着テープを短く切断しようとしても、カッター刃と指の幅以下のサイズは切断できないことになる。尚、粘着テープを保持部及びカッター刃から持ち上げ、粘着テープの先端を指で摘まみなおせば、粘着テープを短く切断することができるが、この場合には、粘着テープを何度も持ちなおしているため、粘着テープに指紋や汚れが多く付いて粘着力が低下してしまうことになる。

【0006】

このように、従来のテープカッターは、粘着テープを引き出して切断する際に粘着テ

50

ブの先端から数c mほどのところを指で摘まむようにしているため、様々な問題が発生していた。

【0007】

一方、近年、粘着テープの先端部を指で摘まんで引き出せるようにしたテープカッターが開発され、特開2005-213040号公報(特許文献1参照)として公開されている。

【0008】

即ち、前記テープカッターは、図9に示す如く、ケース本体10と、ケース本体10に回転自在に支持されたホルダー11と、ホルダー11の外周面に嵌められ、粘着テープ12aをロール状に巻き回して成る粘着テープロール12と、ケース本体10の一端部に設けられ、粘着テープロール12から引き出された粘着テープ12aを切断するテープ切断刃13と、粘着テープロール12とテープ切断刃13との間に設けられ、板バネや弾性ゴム等の弾性板14a及び弾性板14aの先端に形成した押圧部14aから成る剥離手段14とを備えている。

【0009】

而して、前記テープカッターによれば、粘着テープロール12から粘着テープ12aを引き出し、図9の一点鎖線に示すように粘着テープ12aをテープ切断刃13に押し付けて切断すると、剥離手段14を形成する弾性板14aが、粘着テープロール12から引き出されて先端がテープ切断刃13に粘着している粘着テープ12aを下側から上方へ向って押圧し、粘着テープ12aの先端をテープ切断刃13から引き剥がすと共に、粘着テープ12aの先端部が弾性板14aの押圧部14bに粘着されたまま保持されるようになっている。

【0010】

従って、前記テープカッターに於いては、テープ切断刃13により切断された粘着テープ12aの先端部が図9に示すように宙に浮いている状態となっているため、粘着テープ12aの先端を指で摘まんで粘着テープ12aを引き出すことができるので、上述した(a)~(e)に示すような問題を解決することができる。

【0011】

しかし、前記テープカッターに於いても、未だ解決すべき問題点が残されている。

即ち、前記テープカッターは、切断した粘着テープ12aの先端部をただ単に弾性板14aにより上方へ跳ね上げるようにしているため、宙に浮いている状態の粘着テープ12aの先端とテープ切断刃13との間隔が比較的狭く、使用者が粘着テープ12aの先端部を指で摘まむ際に指がテープ切断刃13に当たって怪我をするおそれがあり、安全性に劣ると云う問題があった。また、粘着テープ12aが自重で垂れ下がると、更にテープ切断刃13に近づき、怪我をし易いと云う問題があった。

【0012】

更に、前記カッターテープは、粘着テープ12aをテープ切断刃13で切断する際に弾性板14aを粘着テープ12aで押圧して確実に弾性変形させないと、切断された粘着テープ12aの先端をテープ切断刃13から引き剥がすことができないが、粘着テープ12aを切断する際に弾性板14aがあまり弾性変形をせずに粘着テープ12aがテープ切断刃13により切断されてしまうことがあり、この場合にはテープ切断刃13からの粘着テープ12aの引き剥がしを確実に行えないと云う問題があった。

特に、弾性板14aが金属製の板バネにより形成されている場合には、粘着テープ12aを弾性板14a側へかなり強く押圧操作しなければならず、前記問題がより一層顕著に顕れることになる。

【0013】

更に、前記テープカッターは、弾性板14aが弾性ゴムや合成樹脂により形成されている場合には、長期間の使用により弾性ゴムや合成樹脂が劣化し、弾性板14aの弾性力が失われて切断された粘着テープ12aの先端をテープ切断刃13から引き剥がすことができないと云う問題が発生することになる。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 4 】

そのうえ、前記テープカッターは、粘着テープ 1 2 a を切断する際に弾性板 1 4 a の押圧部 1 4 b が粘着テープ 1 2 a に押圧されて上下方向へ揺動するため、粘着テープ 1 2 a を確実に保持できず、粘着テープ 1 2 a の切断が安定しないと云う問題があった。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 1 5 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 0 5 - 2 1 3 0 4 0 号公報

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

10

【 0 0 1 6 】

本発明は、このような問題点に鑑みて為されたものであり、その目的は、上述した (a) ~ (e) に示すような問題を解決することができることは勿論のこと、安全性に優れていると共に、切断された粘着テープのカッター刃からの引き剥がしを確実に良好に行えるようにしたテープカッターを提供することにある。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 7 】

上記目的を達成するために、本発明の請求項 1 の発明は、少なくとも上方が開放された収容空間を備えたケース本体と、ケース本体の収容空間に収容され、ケース本体に回転自在に支持されたホルダーと、ホルダーの外周面に嵌められ、粘着テープをロール状に巻き回して成る粘着テープロールと、ケース本体の上面側一端部に設けられ、粘着テープロールから引き出された粘着テープを切断するカッター刃とを備えたテープカッターに於いて、前記ケース本体の対向する両側壁に、ホルダーを回転自在に且つカッター刃から離間する方向へ移動自在に支持するガイド溝若しくはガイド穴をケース本体の他端部へ向って下り傾斜状に形成し、当該ガイド溝若しくはガイド穴にホルダーの中心部に設けた支持軸の両端部を挿入してホルダー及び粘着テープロールが自重によりカッター刃から離間する方向へ移動するようにし、また、ホルダーとカッター刃との間の収容空間に、粘着テープロールから引き出されてカッター刃により切断された後の粘着テープの先端部を粘着保持すると共に、粘着テープが切断されてホルダー及び粘着テープロールが自重によりカッター刃から離間する方向へ移動するときに粘着テープの先端をカッター刃から引き剥がしてホルダー側へ離間させるテープ保持機構を設けたことに特徴がある。

20

30

【 0 0 1 8 】

本発明の請求項 2 の発明は、請求項 1 の発明に於いて、テープ保持機構は、ホルダーとカッター刃との間の収容空間の底面若しくはケース本体の両側壁の内面に設けた軸受部と、軸受部にカッター刃側及びホルダー側へ揺動自在に支持され、粘着テープを切断する際に粘着テープを保持すると共に、カッター刃により切断された後の粘着テープの先端部を粘着保持して粘着テープの先端をカッター刃から引き剥がす起立姿勢のテープ保持体とから成り、前記テープ保持体は、粘着テープを粘着保持していないときに自重によりカッター刃側へ揺動して粘着テープを切断する際に粘着テープを保持すると共に粘着テープがカッター刃で切断された際に粘着テープの先端部を粘着保持する粘着位置と、粘着テープが切断されてホルダー及び粘着テープロールが自重によりカッター刃から離間する方向へ移動するときに粘着テープに引っ張られてホルダー側へ揺動して粘着テープの先端部をカッター刃から離間した状態で保持する保持位置とに亘って揺動自在に構成されていることに特徴がある。

40

【 0 0 1 9 】

本発明の請求項 3 の発明は、請求項 2 の発明に於いて、軸受部は、ケース本体と一体的に若しくはケース本体と別体に形成されており、当該軸受部の一部分は、テープ保持体がホルダー側へ揺動したときに保持位置で止まるようにストッパーとしての機能を有することに特徴がある。

【 0 0 2 0 】

50

本発明の請求項４の発明は、請求項２又は請求項３の発明に於いて、テープ保持体は、縦向き姿勢の立上り部と、立上り部の下端に連設され、軸受部の内方へ回転自在に挿入される軸部と、立上り部の上端に連設され、粘着テープを切断する際に粘着テープを保持すると共に粘着テープがカッター刃で切断された際に粘着テープの先端部を粘着保持する立上り部の厚みよりも広幅の保持部とを備えており、当該テープ保持体は、粘着位置へ揺動したときには立上り部の一部が収納空間のカッター刃寄りの側面に接触して粘着位置に起立姿勢で保持され、また、保持位置へ揺動したときには保持部が粘着位置にあるときよりも高い位置になると共に、軸受部のストッパーにより保持位置で止まるように構成されていることに特徴がある。

【００２１】

10

本発明の請求項５の発明は、請求項４の発明に於いて、テープ保持体の少なくとも保持部の色を粘着保持された粘着テープを見易い濃色としたことに特徴がある。

【発明の効果】

【００２２】

本発明の請求項１のテープカッターは、ケース本体の対向する両側壁に、ホルダーを回転自在に且つカッター刃から離間する方向へ移動自在に支持するガイド溝若しくはガイド穴をケース本体の他端部へ向って下り傾斜状に形成し、当該ガイド溝若しくはガイド穴にホルダーの中心部に設けた支持軸の両端部を挿入してホルダー及び粘着テープロールが自重によりカッター刃から離間する方向へ移動するようにし、また、ホルダーとカッター刃との間の収容空間に、粘着テープロールから引き出されてカッター刃により切断された後の粘着テープの先端部を粘着保持すると共に、粘着テープが切断されてホルダー及び粘着テープロールが自重によりカッター刃から離間する方向へ移動するときに粘着テープの先端をカッター刃から引き剥がしてホルダー側へ離間させるテープ保持機構を設ける構成としているため、次のような優れた効果を奏することができる。

20

【００２３】

即ち、本発明の請求項１のテープカッターは、カッター刃で粘着テープを切断したときに粘着テープの先端部がテープ保持機構により粘着保持されていると共に、粘着テープの先端がカッター刃から離間する位置で浮いた状態に保持されているため、粘着テープの先端を指で摘んで粘着テープを引き出すことができ、冒頭で述べた（ａ）～（ｅ）に示すような問題を解決することができる。

30

また、本発明の請求項１のテープカッターは、粘着テープの先端がテープ保持機構によりカッター刃から離間する位置で浮いた状態に保持されているため、粘着テープの先端とカッター刃との間隔が広くなり、使用者が粘着テープの先端部を指で摘まむ際に指がカッター刃に当たって怪我をすると云うことが殆んどなくなり、極めて安全性に優れたものとなる。

更に、本発明の請求項１のテープカッターは、粘着テープをカッター刃で切断したときにホルダー及び粘着テープロールが自重によりカッター刃から離間する方向へ移動するため、粘着テープの先端がカッター刃から簡単に引き剥がされることになる。

【００２４】

本発明の請求項２のテープカッターは、テープ保持機構が軸受部及びテープ保持体から成り、前記テープ保持体が、粘着テープを粘着保持していないときに自重によりカッター刃側へ揺動して粘着テープの先端部を粘着保持する粘着位置となり、また、ホルダー及び粘着テープロールが自重によりカッター刃から離間する方向へ移動するときに粘着テープに引っ張られてホルダー側へ揺動して粘着テープの先端部をカッター刃から離間した状態で保持する保持位置となるため、構造が極めて簡単で故障することなくなるうえ、確實且つ良好に作動することになる。

40

【００２５】

本発明の請求項３のテープカッターは、軸受部の一部分がストッパーとしての機能を有し、テープ保持体がホルダー側へ揺動したときに保持位置で止まるようにしているため、テープ保持体を保持位置で確実に止めることができ、テープ保持体が必要以上に揺動する

50

のを防止することができる。

また、本発明の請求項 3 のテープカッターは、軸受部をケース本体と一体的に形成した場合、軸受部とケース本体の組み立て作業を省略することができる。

【0026】

本発明の請求項 4 のテープカッターは、テープ保持体が立上り部、軸部及び保持部から成り、粘着位置へ揺動したときに立上り部の一部が収納空間のカッター刃寄りの側面に接触するため、テープ保持体は粘着位置に起立姿勢で確実に保持されることになる。

また、本発明の請求項 4 のテープカッターは、テープ保持体の立上り部の上端に切断された後の粘着テープの先端部を粘着保持する立上り部の厚みよりも広幅の保持部を備えているため、粘着テープを確実に良好に粘着保持することができる。

【0027】

本発明の請求項 5 のテープカッターは、テープ保持体の少なくとも保持部の色を粘着保持された粘着テープを見易い濃色としているため、テープ保持体に保持された粘着テープを確実に良好に視認することができ、取扱性に優れたものになる。

【図面の簡単な説明】

【0028】

【図 1】本発明の実施形態に係るテープカッターの側面図である。

【図 2】同じくテープカッターの平面図である。

【図 3】同じくテープカッターの縦断側面図である。

【図 4】ケース本体の収納空間にホルダーを収納した状態の側面図である。

【図 5】ホルダーの他の例を示す側面図である。

【図 6】小巻のホルダーを使用したテープカッターの側面図である。

【図 7】テープ保持機構の軸受部の他の例を示し、(A)は軸受部にテープ保持体の軸部を挿入する状態の側面図、(B)は軸受部にテープ保持体の軸部を挿入した状態の斜視図である。

【図 8】テープカッターの作動状態を示し、(A)はスタンバイ状態を示すテープカッターの側面図、(B)は粘着テープを引き出した状態のテープカッターの側面図、(C)は引き出した粘着テープをカッター刃で切断する状態のテープカッターの側面図、(D)は切断された粘着テープの先端部がテープ保持体で保持された状態を示すテープカッターの側面図である。

【図 9】従来のテープカッターの側面図である。

【発明を実施するための形態】

【0029】

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて詳細に説明する。

図 1 ~ 図 3 は本発明の実施形態にテープカッターの一例を示すものであり、当該テープカッターは、粘着テープ 3 a をロール状に巻き回して成る粘着テープロール 3 を回転自在に保持すると共に、粘着テープロール 3 から所定量引き出された粘着テープ 3 a を所定の長さに切断するものであり、机上等に置かれ、少なくとも上方が開放された収容空間 S を備えたケース本体 1 と、ケース本体 1 の収容空間 S に収容され、ケース本体 1 に移動自在に且つ回転自在に支持された円形のホルダー 2 と、ホルダー 2 の外周面に嵌められた粘着テープロール 3 と、ケース本体 1 に設けられ、粘着テープロール 3 から引き出された粘着テープ 3 a を切断するカッター刃 4 と、ケース本体 1 の収容空間 S に配設され、カッター刃 4 により切断された後の粘着テープ 3 a の先端部を粘着保持すると共に、粘着テープ 3 a の先端をカッター刃 4 から引き剥してホルダー 2 側へ離間させるテープ保持機構 5 とを備えている。

【0030】

具体的には、前記ケース本体 1 は、金属材又は合成樹脂材により上方(図 1 の上側)及び後方(図 1 の左側)が開放された四角形の箱状に形成されており、対向する左右の側壁 1 a と、前壁 1 b と、底壁 1 c と、上方及び後方が開放された収容空間 S とを備えている。

また、ケース本体 1 の上面側一端部（前壁 1 b の上面端部）には、粘着テープロール 3 から引き出された粘着テープ 3 a を切断するカッター刃 4 が上向きに設けられている。このカッター刃 4 の両側位置には、使用者が上向き姿勢のカッター刃 4 で怪我をしないようにカッター刃 4 よりも背が高い突部 1 f が突出形成されている。

更に、ケース本体 1 の他端部上部位置で且つ対向する左右の側壁 1 a 内面には、ホルダー 2 を回転自在に且つカッター刃 4 から離間する方向へ移動自在に支持すると共に、ケース本体 1 の他端部（後端部）へ向って下り傾斜状になっているガイド溝 1 d と、ガイド溝 1 d に連通する上方が開放された縦向き姿勢の挿入溝 1 e と、同じく上方が開放されてガイド溝 1 d よりも深く形成された縦向き姿勢のホルダー収納溝 1 g とがそれぞれ形成されている。ホルダー収納溝 1 g は、テープカッター自体を梱包用の紙箱に収納する際にホルダー 2 をケース本体 1 の収容空間 S 内へ収納するのに使用するものであり、ホルダー収納溝 1 g の形成位置及び深さは、ホルダー 2 が収容空間 S 内へ完全に納まるように設定されている（図 4 参照）。

加えて、ケース本体 1 の両側壁 1 a の一端部上部には、テープ保持機構 5 に粘着保持されている粘着テープ 3 a を摘み易いように切欠部 1 h が形成されている。

そして、ケース本体 1 の幅、長さ及び重さは、ケース本体 1 自体が机上等で倒れたり、簡単に移動したりしないように安定した姿勢で置かれるようにそれぞれ設定されている。

【0031】

尚、上記の実施形態に於いては、ケース本体 1 を上方及び後方が開放された四角形の箱状に形成したが、ケース本体 1 の形状及び構造は、上記の実施形態に限定されるものではなく、少なくとも上方が開放された収容空間 S を備えておれば、如何なる形状及び構造であっても良い。

また、上記の実施形態に於いては、ケース本体 1 の対向する左右の側壁 1 a 内面にガイド溝 1 d、挿入溝 1 e 及びホルダー収納溝 1 g を形成するようにしたが、他の実施形態に於いては、図示していないが、ガイド溝 1 d、挿入溝 1 e 及びホルダー収納溝 1 g の替わりにケース本体 1 の対向する左右の側壁 1 a に貫通状のガイド穴、挿入穴及びホルダー収納穴を形成するようにしても良い。

更に、図示していないが、ケース本体 1 が安定した姿勢で机上等に置かれるように、ケース本体 1 の下面に矩形状の基台を設けたり、或いは、ケース本体 1 に重り等を取り付けたり、ケース本体 1 の下面に滑り止めシートを取り付けるようにしても良い。

【0032】

前記ホルダー 2 は、合成樹脂材により円形に形成されており、その中心部には、ケース本体 1 の挿入溝 1 e からガイド溝 1 d 内へ挿入されてガイド溝 1 d 内に回転自在に且つ移動自在に支持される支持軸 2 a が一体的に突出形成されている。

また、ホルダー 2 は、その上端部以外がケース本体 1 の収容空間 S に収納された状態でガイド溝 1 d 内に回転自在に且つ移動自在に支持されており、ガイド溝 1 d がケース本体 1 の他端部（後端部）へ向って下り傾斜状に形成されていることとも相まって、自重によりガイド溝 1 d の高所側から低所側へ転がり、カッター刃 4 から離間する方向へ移動するようになっている。

【0033】

尚、上記の実施形態に於いては、大巻（大きい径）の粘着テープロール 3 を保持できるホルダー 2 を使用するようにしたが、他の実施形態に於いては、図 5 に示す如く、大巻（大きい径）の粘着テープロール 3 と小巻（小さい径）の粘着テープロール 3 の両方を保持できるホルダー 2 を使用するようにしても良い。

即ち、前記ホルダー 2 は、図 5 に示す如く、大径のホルダー部 2 と、大径のホルダー部 2 の中心部に着脱自在に挿着されて支持軸 2 a を備えた小径のホルダー部 2 とから成り、大巻の粘着テープロール 3 を使用する場合には、大径のホルダー部 2 の外周面に大巻の粘着テープロール 3 を嵌め、また、小巻の粘着テープロール 3 を使用する場合には、小径のホルダー部 2 を大径のホルダー部 2 から取り外し、小径のホルダー部 2 の外周面に小巻の粘着テープロール 3 を嵌め、小径のホルダー部 2 の支持軸 2 a をケ

10

20

30

40

50

ース本体 1 のガイド溝 1 d 内に回転自在に且つ移動自在に挿入する（図 6 参照）。

【 0 0 3 4 】

前記粘着テープロール 3 は、ビニールシート等の基材の一面に粘着剤を塗布して成る粘着テープ 3 a をリング状の紙管 3 b にその粘着面が内側を向きようにしてロール状に巻き回すことにより形成されており、ホルダー 2 の外周面に着脱自在に嵌め込まれ、ホルダー 2 と一緒に回転自在且つ移動自在となっている。

【 0 0 3 5 】

前記テープ保持機構 5 は、ホルダー 2 とカッター刃 4 との間の收容空間 S の底面に設けた軸受部 5 と、軸受部 5 にカッター刃 4 側及びホルダー 2 側へ揺動自在に支持され、粘着テープ 3 a を切断する際に粘着テープ 3 a を保持すると共に、カッター刃 4 により切断された後の粘着テープ 3 a の先端部を粘着保持して粘着テープ 3 a の先端をカッター刃 4 から引き剥がす起立姿勢のテープ保持体 5 とから成る。

【 0 0 3 6 】

即ち、軸受部 5 は、断面形状逆 U 字状に形成されており、ケース本体 1 の收容空間 S の底面（底壁 1 c の上面）に所定の間隔を空けて一対設けられている。この軸受部 5 は、底壁 1 c に一体的に形成しても良く、或いは、底壁 1 c と別体に形成しても良い。

また、軸受部 5 は、カッター刃 4 寄りの端部が收容空間 S の底面から離間しており、軸受部 5 のカッター刃 4 寄りの端部は、テープ保持体 5 がホルダー 2 側へ揺動したときに所定の位置（後述する保持位置）で止まるようにストッパーとしての機能を有している。

【 0 0 3 7 】

尚、上記の実施形態に於いては、軸受部 5 を断面形状逆 U 字状に形成したが、軸受部 5 の形状及び構造は、上記の実施形態のものに限定されるものではなく、テープ保持体 5 を揺動自在に支持することができれば、如何なる形状及び構造であっても良い。

例えば、図 7（A）及び（B）に示すように、軸受部 5 を断面形状逆 U 字状に形成し、軸受部 5 の内方へ後述するテープ保持体 5 の軸部 5 c を上方から嵌め込むようにしても良い。この場合には、テープ保持体 5 が保持位置で止まるように軸受部 5 と別の位置にストッパー（図示省略）を設ける。このストッパーは、收容空間 S の底面に設けても良く、或いは、ケース本体 1 の側壁 1 a の内面に設けても良い。

また、上記の実施形態に於いては、軸受部 5 を收容空間 S の底面に設けるようにしたが、他の実施形態に於いては、図示していないが、軸受部 5 をケース本体 1 の両側壁 1 a の内面に設けるようにしても良い。

【 0 0 3 8 】

一方、テープ保持体 5 は、合成樹脂材により粘着テープ 3 a の幅よりも広幅の板状に形成されており、断面形状 L 字形に形成された縦向き姿勢の立上り部 5 a と、立上り部 5 a の下端に連設され、軸受部 5 の内方へ回転自在に挿入される軸部 5 b と、立上り部 5 a の上端に連設され、粘着テープ 3 a を切断する際に粘着テープ 3 a を保持すると共に粘着テープ 3 a がカッター刃 4 で切断された際に粘着テープ 3 a の先端部を粘着保持する立上り部 5 a の厚みよりも広幅の保持部 5 c とを備えている。

このテープ保持体 5 は、粘着テープ 3 a を粘着保持していないときに自重によりカッター刃 4 側へ揺動して粘着テープ 3 a を切断する際に粘着テープ 3 a を保持すると共に粘着テープ 3 a がカッター刃 4 で切断された際に粘着テープ 3 a の先端部を粘着保持する粘着位置（図 1 及び図 3 の一点鎖線位置）と、粘着テープ 3 a が切断されてホルダー 2 及び粘着テープロール 3 が自重によりカッター刃 4 から離間する方向へ移動するときに粘着テープ 3 a に引っ張られてホルダー 2 側へ揺動して粘着テープ 3 a の先端部をカッター刃 4 から離間した状態で保持する保持位置（図 1 及び図 3 の実線位置）とに亘って揺動自在に構成されており、粘着位置へ揺動したときには立上り部 5 a の一部（垂直部）が收容空間 S のカッター刃 4 寄りの側面（前壁 1 b 内面）に接触して粘着位置に起立姿勢で保持され、また、保持位置へ揺動したときには保持部 5 c が粘着位置にあるときよりも高い位置になると共に、軸受部 5 のストッパーにより保持位置で止まるようになっている。

更に、テープ保持体 5 は、保持部 5 c が切断された粘着テープ 3 a の先端部を粘着保持したときに粘着テープ 3 a を見易いように全体が濃色（例えば、ブラックやグレー等）に着色されている。

そして、テープ保持体 5 の揺動ストローク（保持部 5 c の移動距離）は、ホルダー 2 の移動ストローク（支持軸 2 a の移動距離）よりも若干長くなるように設定されており、ホルダー 2 がガイド溝 1 d 内を高所側から低所側へ移動したときにテープ保持体 5 がホルダー 2 側へ若干量だけ動けるように遊びを持たせている。これは、ホルダー 2 がガイド溝 1 d 内を高所側から低所側へ移動したときに保持位置へ揺動したテープ保持体 5 の保持部 5 c から粘着テープ 3 a が引き剥がされないようにするためのものである。

【0039】

尚、上記の実施の形態に於いては、テープ保持体 5 全体を濃色に着色するようにしたが、他の実施の形態に於いては、テープ保持体 5 の保持部 5 c のみを濃色に着色するようにしても良い。

また、上記の実施形態に於いては、テープ保持体 5 の形状を側面から見て L 字形状としたが、テープ保持体 5 の形状は、如何なる形状であっても良い。例えば、テープ保持体 5 の形状を側面から見てくの字形状としたり、或いは、円弧形状としたりしても良い。

【0040】

次に、上述したテープカッターを用いて粘着テープ 3 a を切断する場合について説明する。

【0041】

前記テープカッターは、スタンバイ状態のときには、ホルダー 2 及び粘着テープロール 3 が自重によりガイド溝 1 d の低所位置に保持されていると共に、粘着テープロール 3 から引き出された粘着テープ 3 a の先端部が保持位置に揺動しているテープ保持体 5 の保持部 5 c に粘着保持されている（図 8（A）参照）。

【0042】

このとき、テープ保持機構 5 により粘着テープ 3 a の先端がホルダー 2 側へ移動してカッター刃 4 から離間する位置で浮いた状態に保持されているため、粘着テープ 3 a の先端とカッター刃 4 との間隔が広くなり、使用者が粘着テープ 3 a の先端部を指で摘まむ際に指がカッター刃 4 に当たって怪我をすると云うことが殆んどなくなり、極めて安全性に優れている。

また、粘着テープ 3 a の先端が宙に浮いている状態となっているため、粘着テープ 3 a の先端を指で小さく摘まんで粘着テープ 3 a を引き出すことができるので、粘着テープ 3 a の真ん中あたりに指の指紋や汚れが付くことがなくなると共に、粘着テープ 3 a を短く切断することができる。

更に、粘着テープ 3 a を貼り付ける際に粘着テープ 3 a を持ち替える必要もなくなり、粘着テープ 3 a の持ち替えの際に生じる粘着テープ 3 a のよじれや皺の発生もなくなる。

そのうえ、粘着テープ 3 a を引き出す際には、粘着テープ 3 a の先端を摘まんで引き出せるので、粘着テープ 3 a の引き出し操作も行い易くなる。

加えて、テープ保持体 5 が粘着テープ 3 a を見易い濃色に形成されているため、テープ保持体 5 に保持された粘着テープ 3 a を確実に良好に視認することができる。

【0043】

テープカッターがスタンバイ状態のときにテープ保持体 5 に粘着保持されている粘着テープ 3 a の先端を指で摘まんで粘着テープロール 3 から引き出すと、粘着テープ 3 a の先端部がテープ保持体 5 の保持部 5 c から引き剥がされ、保持位置にあるテープ保持体 5 が自重により保持位置から粘着位置へ揺動する（図 8（B）参照）。

また、ホルダー 2 及び粘着テープロール 3 が引き出される粘着テープ 3 a に引っ張られてガイド溝 1 d 内を低所側から高所側へ移動し、ガイド溝 1 d の高所側で回転自在に保持される（図 8（B）参照）。

尚、テープ保持体 5 が粘着位置へ揺動したときには立上り部 1 a の一部（垂直部）が

10

20

30

40

50

収納空間 S のカッター刃 4 寄りの側面に接触するため、テープ保持体 5 が粘着位置に起立姿勢で確実に保持されることになる。

【 0 0 4 4 】

粘着テープロール 3 から所定長さの粘着テープ 3 a が引き出されたら、粘着テープ 3 a をカッター刃 4 に押し付けて切断する。

このとき、粘着テープ 3 a の先端部が粘着位置にあるテープ保持体 5 の保持部 5 c に保持固定されてからカッター刃 4 で切断されるため、粘着テープ 3 a の切断を安定して行える。

また、切断された粘着テープ 3 a の先端部裏面が粘着位置にあるテープ保持体 5 の保持部 5 c に粘着保持される（図 8（C）参照）。

更に、テープ保持体 5 の保持部 5 c は、立上り部 5 a の厚みよりも広幅に形成されているため、粘着テープ 3 a を確実に良好に粘着保持することができる。

【 0 0 4 5 】

そして、引き出した粘着テープ 3 a がカッター刃 4 により切断されたら、ホルダー 2 及び粘着テープロール 3 が自重によりガイド溝 1 d 内を高所側から低所側へ移動し、カッター刃 4 から離間する方向へ移動する。

また、ホルダー 2 及び粘着テープロール 3 がカッター刃 4 から離間する方向へ移動するときに粘着テープ 3 a に引っ張られて粘着テープ 3 a の先端がカッター刃 4 から確実に引き剥がされると共に、粘着テープ 3 a の先端部を粘着保持しているテープ保持体 5 が粘着位置から保持位置へ揺動してスタンバイ状態に戻る（図 8（D）参照）。

尚、テープ保持体 5 は、保持位置に揺動したときに軸受部 5 のカッター刃 4 寄りの端部がストッパーとしての機能を有しているため、保持位置で確実に止められ、ホルダー 2 側へ必要以上に揺動するのが防止される。

また、テープ保持体 5 の揺動ストロークは、ホルダー 2 の移動ストロークよりも若干長くなるように設定され、ホルダー 2 がガイド溝 1 d 内を高所側から低所側へ移動したときにテープ保持体 5 がホルダー 2 側へ若干量だけ動けるように遊びを持たせているため、ホルダー 2 がガイド溝 1 d 内を高所側から低所側へ移動したときにテープ保持体 5 の保持部 5 c から粘着テープ 3 a が引き剥がされるのを防止することができる。

【 0 0 4 6 】

このように、上述したテープカッターは、冒頭で述べた従来のテープカッターの問題点を全て解決することができる。

【 符号の説明 】

【 0 0 4 7 】

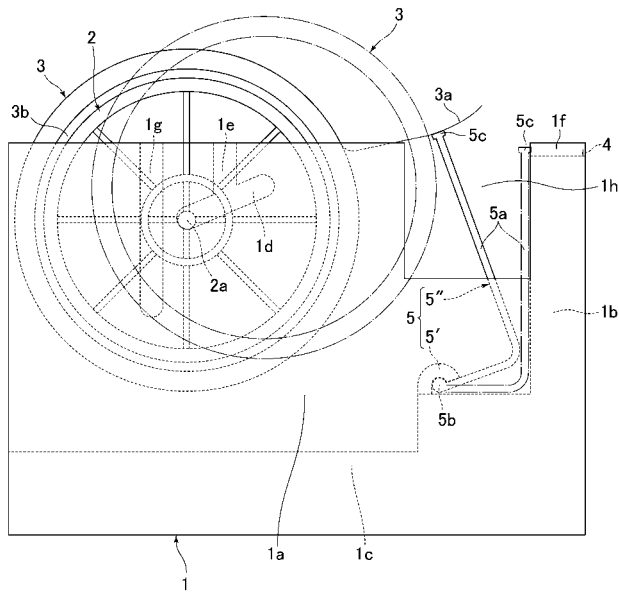
1 はケース本体、1 a は側壁、1 b は前壁、1 c は底壁、1 d はガイド溝、1 e は挿入溝、1 f は突部、1 g はホルダー収納溝、1 h は切欠部、2 はホルダー、2 は大径のホルダー部、2 は小径のホルダー部、2 a は支持軸、3 は大径の粘着テープロール、3 は小径の粘着テープロール、3 a は粘着テープ、3 b は紙管、4 はカッター刃、5 はテープ保持機構、5 は軸受部、5 はテープ保持体、5 a は立上り部、5 b は軸部、5 c は保持部、S は収容空間。

10

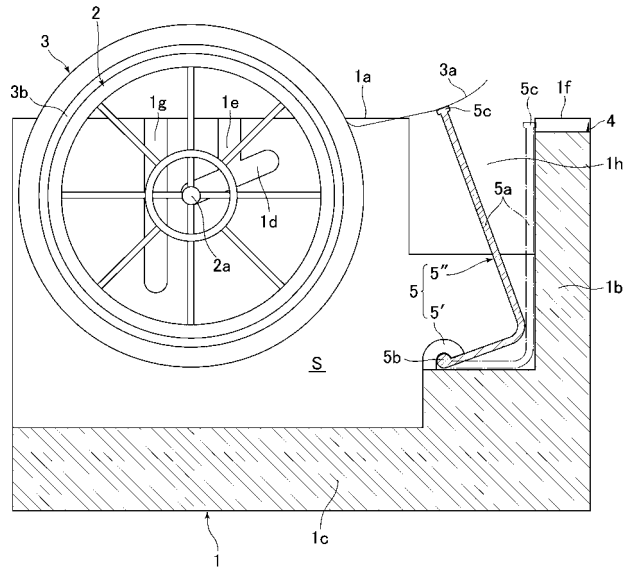
20

30

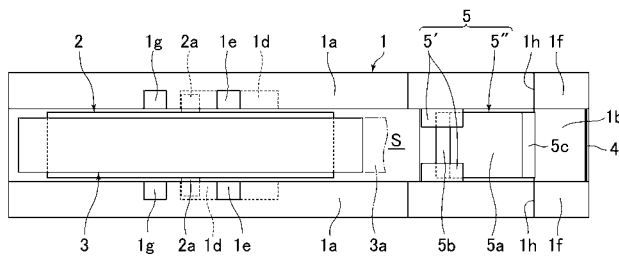
【図 1】



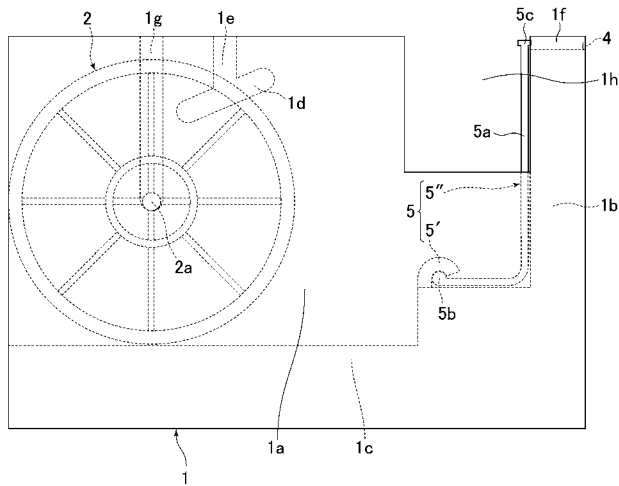
【図 3】



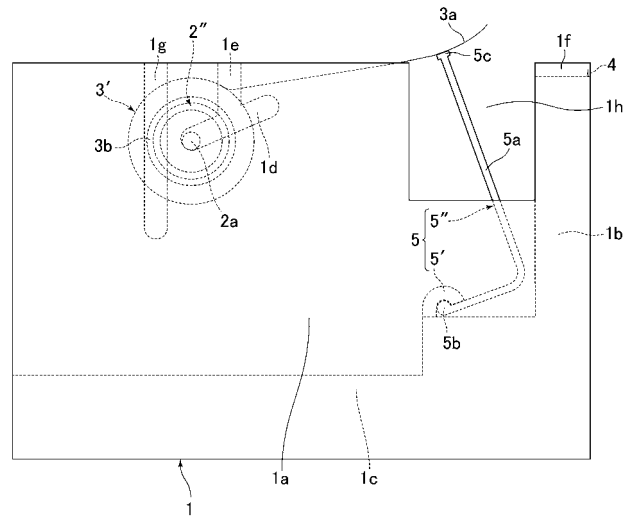
【図 2】



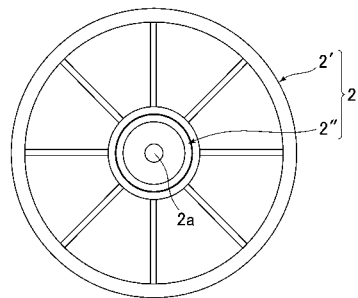
【図 4】



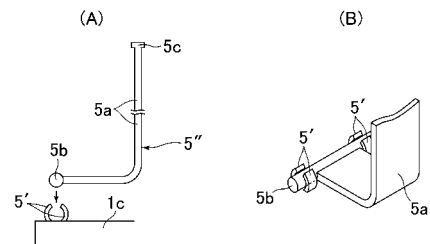
【図 6】



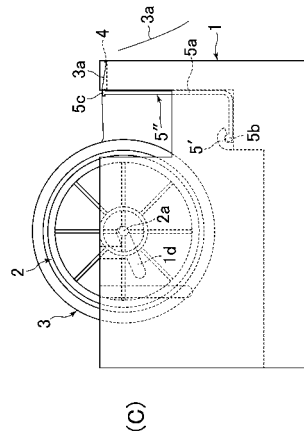
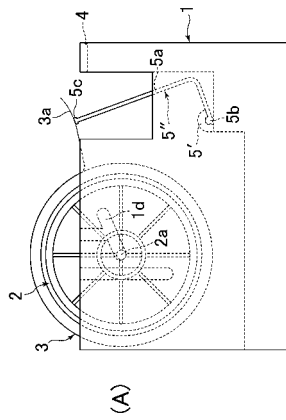
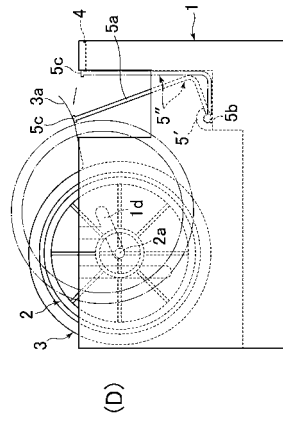
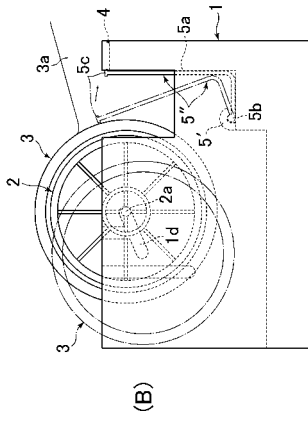
【図 5】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

